

1 本園の教育目標

教育理念 「キリスト教保育に基づき、明るく素直な生活態度、逞しい身体、豊かな情操を育むことを保育理念とする。」

- ・ 神を賛美し、つねに感謝する子ども
- ・ 自ら考え想像し、仲間と共に遊びや生活を作り出す子ども
- ・ 異年齢児と親しく関わり、育ち合う子ども
- ・ 豊かな自然と関わる創造的な子ども

2 本年度重点的に取り組む目標・計画

(1) 戸山幼稚園の特徴である“自然環境”の中で、子どもたちが自然物に興味を持ち、知識を増やせる保育計画を行い、経験を増やす。

(2) 季節の移り変わりを感じ、四季折々の自然体験を通して、食に興味を持ち喜んで味わう。

(3) 様々な行事を通して、考えたり、試したりしながら、個々の発達に応じて主体的に過ごす充実感を味わう。

(4) 戸山幼稚園の保育を保護者や地域へ伝えられるよう、行事やイベントを通して繋がりを増やす。

3 評価項目の達成および取り組み状況

*評価 A=十分に成果があった B=成果があった C=成果なし

評価項目	取り組み内容	自己評価	評価
保育について (1, 3, 4)	・遊びの中で、子どもたちの主体性を育み、自己充実できる保育計画、対応を心掛ける。	・子どもたちの姿を読み取り、それぞれに見合ったねらいを設定しながら、適した保育計画が行えるように、研修の場や園内での職員の連携を大切に取り組んだ。 ・保育者のキャリアや、担任、保育補助に関係なく、子どもたちの自己充実のために情報共有を行い、互いの保育観やアドバイスを取り入れ合う場を大切にしてきた。 ・日々子どもたちとの対話を心掛けることで、自己充実や自己表出、自己実現など、成長に繋がる活動や行事に繋がった。	A
自然遊びについて (1, 2)	・園周辺の散策 ・生き物の飼育 ・昆虫採集 ・自然観察会、やきいもパーティー、マラソン	・箱根山公園の環境で出会える生き物や自然物に興味が深まるよう、プロナチュラリストの佐々木洋先生を招いて、実体験を通して知識を増やせる自然観察会を開催した。 ・四季を通して出会う生き物が変化することを味わいながら、異年齢の刺激を受けあい様々な飼育の方法を調べたり学んだりした。また、遠足にて興味の対象が広がるよう生態に触れる機会も設けた。 ・自然環境と共存できる園環境のおかげで、知的好奇心や身体能力向上など、多面的に子どもの成長を促す場が守られた。	A
食育について (2)	・夏野菜について知り、自分の手で育て収穫し、実際に味わう。 ・秋の味覚を味わったり、調理する喜びを知ったりする。	・兄弟の影響を受けてお泊まり保育を計画した年長児が、自分たちで食べたいメニューを考え、必要な野菜を栽培した。この主体的なプロセスを経て、自己実現が叶う機会に喜びを感じ、苦手な野菜にも挑戦しようとする姿増えた。 ・夏の年長児の経験を受けて、秋には園庭でやきいもパーティーを行い、冬には手作りパーティーを設けて卒園する年長にごちそうをプレゼントした。集団生活で同じものを味わう嬉しさを味わった。 ・自分たちで作った喜びから苦手なメニューを克服する子や、調理ができた喜びにより、家庭でのお手伝いに繋がった子も多かった。	A
特別支援保育について (3, 4)	・新宿区療育センターとの連携 ・民間療育との連携 ・園外研修への参加 ・保護者理解 ・行事の見直し	・様々な家庭環境や成長発達があるが、他者理解を深めながら集団の一員としてかかわることを喜び合えるクラスとなるように保育者がモデルとなって、多様な個性を受け入れ合うよう努めた。 ・新宿区の療育施設や、その他民間機関との連携を増やすことで専門家の意見を取り入れ、各個人に合った最善の対応ができるように配慮し続けた。 ・身体的な配慮が必要な児童も含めて、園行事を執り行えるよう	A

		に、これまでの固定概念を捨てて、今年の子どもたちに見合った計画を何度も検討して行っていった。	
地域環境について (4)	・地域の方々との交流 ・地域住民などを招いた行事	・近隣住民の方々にシルバー人材派遣と称して園の活動のお手伝いをいただく機会ができた。それによって、子どもたちが“先生”以外の大人と関わる喜びや安心感を味わう場となった。 ・園庭開放、バザー、親子体操の機会を通して、近隣住民や未就園児にも園の魅力を伝え、地域と共に存続できる園として理解してもらえるように配慮した。 ・地域センターなどに園児の作品を展示し、地域の方の目に触れる機会を増やしたり、在園児が地域施設に足を運ぶ機会を増やすための活動を取り入れた。	A

4 総合的な評価結果

評価	理由
A	新宿区の私立幼稚園の中で、戸山幼稚園らしさを常に考えながら、子どもたちの主体的な活動や行事を計画し続けた。児童数が減ったり、特別支援の必要な児童を抱えたりする中で、全園児の心と身体の成長を願いながら、ひとりひとりに合ったねらいを保育者たちが誠実に持つことで、個性を大切にできる園環境が持続できたと考える。 また今年度は地域環境での繋がり感を大切にできるように、地域センターや近隣の方々と交流が持てる場を設けた。

5 学校関係者評価の実施（2026年3月11日・父母の会役員会にて）

（注記）

父母の会役員は、全保護者家庭より各クラス（3クラス）から2名、計6名選任される。

<幼稚園・父母の会について>

- ・こんなに子どもの幼少期を大切にできる園環境はとても貴重であった。姉の時には働きながら保育園に通わせていたが、弟が通園したことで、近くで見届けられる成長がたくさんあることを感じた。また、そんな成長を共に喜び共有できる母親同士の交流、関係が築けたことも喜びとなっている。
- ・様々な個性がある中で、加配児童にも愛情深くかかわってくれること、入園を受け入れてくれることを感謝。日常生活を共に過ごせることで、たくさんの成長を味わうことができた。
- ・この園で成長していくことを、子ども自身も楽しみにしている。「ゆりさん（年長）になる」が当然だと思っているので、自然と日常生活や遊びの場面で、異年齢での関わりに深まりが育っており、心地よく人間関係を構築する学びとなっていることを感じる。また、自己肯定感を持って過ごせている。
- ・父母の会の活動を無理なく、前向きに楽しむことができる環境だった。しかし、園児が減少する中で、1人1人にかかる比重が大きくなってしまふことは懸念点であるため、さらに活動の見直しをしながら、園の良さが持続するといい。卒園児母などの力も借りられると助かるのではないかと。

<食育について> (2) 参照

- ・実際に苦手な野菜も、園では美味しかったという姿が多くあった。
- ・家ではなかなか調理の機会をゆっくり設けられない面もあるが、子どもたちが自信を持って取り組んでいたことを受けて、取り入れてみたいと感じた。自分もできる！という気持ちを持てる経験だった。
- ・子どもたちが喜んでいる場に、父母が手伝いに入れたこともよかった。みんなで開放感を持って、美

美味しいものを共有できる時間は集団生活ならではの感じる。

<行事について> (3) 参照

・お泊まり保育が特別な経験となっている。卒園を控えてもキラキラした思い出として残っている様子。一人で寝ること、好き嫌いなく野菜を食べることなど、就寝中にオムツをしないなど、このために頑張ろうとする子の姿がたくさん見られた。

・自然観察会においては、戸山の魅力のひとつ。保護者も一緒にわくわくできて良かった。興味が無い人にとっては新たな発見となり、専門的な知識がつくことや、そういった大人に出会える機会になるのが良かった。また、安全、危険、の意識も持てたのではないかな。

・こま廻しショーは、大人の方が夢中になる時間となった。童心に戻りながら、子どもたちと同じ視点で楽しめるのが良い。ファンも多いので今後も続けていきたいイベント。